

## 地域の人と人とのつながりを把握する

——リソースジェネレータの手法を用いた社会関係資本へのアプローチ

芝浦工業大学工学部教授

栗島 英明

### 多様で複雑なコミュニティの諸形態

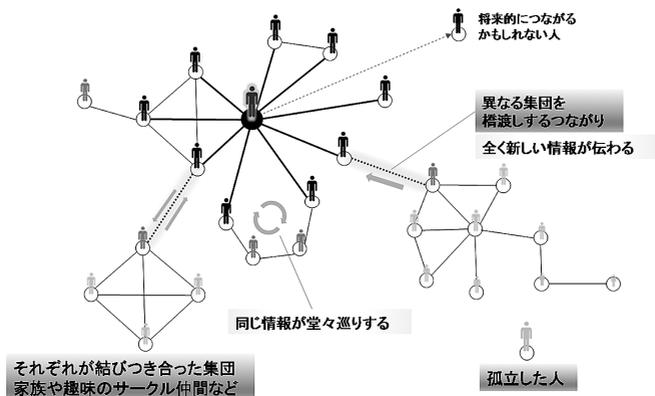
先ほど広井先生のお話の中でもコミュニティという話が出てきましたが、人口減少時代の地域のつながりやコミュニティを考える際に、よく「地域の社会関係資本やコミュニティは衰退している」という話がされます。

その際には、空間的に集中していて、多重的で、密度が濃く、親族や隣人等の同質的で、強いつながりが前提になっています。これを見出せない場合に、コミュニティが衰退したとされてきました。また、これも先ほどの話とも関わってきますが、日本国内では「人口減少や超高齢化、人口流動、職住分離といった社会の変化に伴って地縁的なつながりが希薄化し、地域の社会関係資本が衰退してきた」とも言われています。これも、特定の、閉じられた境界内の、アイデンティティや規範を共有する、地域共同体というものを想定して言われていることです。

ただ、これも広井先生のお話にありましたが、実際の我々のつながりやコミュニティは、非常に多様で複雑で、職場のコミュニティなどさまざまな形態のものがあります。したがって、そのつながりは、単一の連帯というよりは、まばらに編まれていて、かつ空間的に分散され、枝分かれした構造を持つものであると理解するほうがよいのではないかと我々のグループでは考えています。

また、そのような空間的・社会的に枝分かれしたつながりというのは、実際には連帯の中にいると得られないであろう情報や知識・知恵、資源を手に入れることも可能になってきます。よって、我々のグループが考えているつながりとは、もちろん家族のつながりや近所や地域の人とのつながりもありますが、

図1 つながりのかたち（集団・橋渡し・孤立すること）



（出典）以下、すべて当日発表のスライドより。筆者作成

仕事関係の人、かつての大学や学生時代の友人・知人、あるいはインターネットで知り合った同じ趣味の人なども含まれます。ちなみに私は妻と結婚して20年になりますが、妻とはインターネットで知り合いました。インターネットで知り合った同じ趣味のつながりから、新しい家族というつながりを作ったというひとつの事例であります。つながりのかたちにはいろいろとありますが、図1の左下にあるような密なつながりもあれば、真ん中にあるようなネットワーク的なあるいは橋渡しをするようなつながりもあります。このようなつながりは地域や個人に対して新しい価値をもたらす可能性があると考えています。

### 物理的な境界に左右されない「つながり」と波及効果

このように考えていくと、人口減少時代の地域のつながりを考えていくときに、先ほどのお話にもありましたように、人口減少や超高齢化によって地域内で物理的につながれる人の数や多様性にはどうしても限界があります。特に農村部はその傾向が強いと思います。一方で、交通手段や情報技術の発達によって、つながり自体は物理的な境界に左右されないという面もあります。つまり、地域外の人とのつながりも地域に関わる可能性のあるつながりと考えなければいけないと考えます。

図2 町内自主防災会（埼玉県）での一例

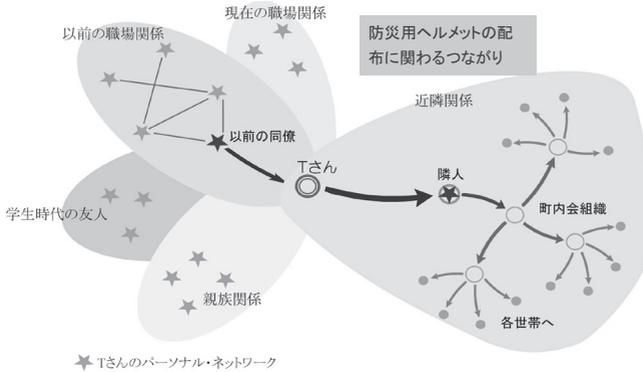
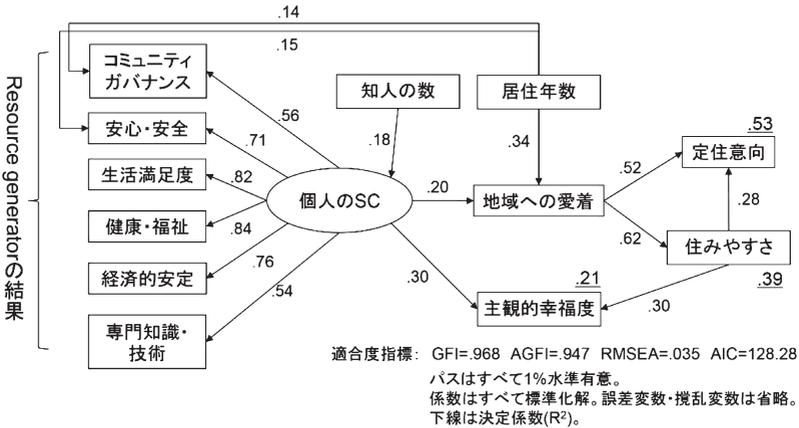


図2は共同研究者の中村先生の研究事例ですが、ある町内会で自主防災会を作ろうという際にヘルメットが必要ということになりました。このときにTさんが以前勤めていた職場で大量にヘルメットが余るという情報があり、Tさんが橋渡しをして地域のコミュニティにヘルメットが広がっていきました。Tさんが職場の関係とつながっている橋渡しの役割をしたからこそ、地域の防災組織は、言い方は悪いですが、タダでヘルメットを入手することができました。職場のつながりは直接的には地域に関わりがないように見えますが、間接的には地域に関わっているよい事例だと考えています。

そのようなことを踏まえ、我々のグループでは、社会関係資本というものを「地域に住んでいる人々が持っている人間関係と、そこから得られる直接的・波及的な効用」と考えています。ひとつは本人にもたらされるメリットがあるだろう、本人だけでは達成できない目標に対して、相手から直接的に得られたり、相手が持つつながりを通して間接的に得られたりするものがあります。

さらには、家族にもたらされるメリットもあるでしょう。たとえば、仕事のために、高齢の親の買い物につきあうことはできないけれども、近所の人が車に乗せて行ってくれる。これは、家族に対してのメリットということになります。そして、地域や住人にもたらされるメリットも一般的にあると言われてい

図3 市原市における社会関係資本と地域への愛着・主観的幸福度との関係  
(栗島ほか 2015)



て、ここが社会関係資本がよく注目されているポイントですが、このようなこと以外にも、さまざまなメリットがあると考えています。

また、市原市でリソースジェネレータという手法でアンケートを取らせていただきました時に、アンケートで得られた社会関係資本というものがどういったところに影響しているか、を分析しました。その結果、図3のように自分たちが住んでいる地域に対する愛着や、個人的な主観的な幸福度に関わりがあるというような結果が出ています。したがって、社会関係資本は、個人に対しても、そして地域に対しても、家族に対してもメリットをもたらしています。もちろんデメリットもありますが、メリットをもたらすものをこの研究では社会関係資本というように設定しています。問題は、これをどのようにして測定するかということです。

### 「リソースジェネレータ」による社会関係資本の測定

社会関係資本の測定手法はいろいろとありますが、さきほど我々が定義した定義に基づいて調査をすれば、ここで書かれているリソースジェネレータという手法が妥当ではないかと考えています。これはもともとオランダで開

図4 リソースジェネレータの構造

		獲得先リスト									
		A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
		A 同居の方	B 近所にお住まいの 同世代の方	C 近所にお住まいの異なる 世代の方	D 地域内にお住まいの異なる 世代の方	E 市内にお住まいの同世代の方	F 市内にお住まいの異なる 世代の方	G 市内にお住まいの異なる 世代の方	H 市外にお住まいの同世代の方	I 市外にお住まいの異なる 世代の方	J そのような知り合いはいない
(座談会の結果 を元に作成)	ア. あなたが病気や障害を抱えた時に介護、看病など をお願いできる	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
	イ. あなたが対応できない時、一時的に家事や家族の 世話(介護、育児など)をお願いできる	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
	ウ. お葬式の手伝いをお願いできる	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
	エ. あなたが病気の時など動けない時に、代わりに ちょっとした用事(買い物など)をお願いできる	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
	オ. 保証人になることをお願いできる	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J

発された手法で、イギリスオランダ等で調査が行われていまして、特に公衆衛生分野や健康分野に適用されている手法です。30程度の他の人に協力を依頼するような具体的な項目をリソースと呼び、そのリソースを実際に得ることができる知人や友人がいるかどうかをチェックしていくものです。回答者がアクセスできる社会関係資本の種類を測定するところが重要なポイントです。社会関係資本の調査で「友人や知人が何人いますか」という質問がよく使われますが、その場合はつながりの数は把握できても、実際に頼りになるつながりかどうかというところまでは見えてきませんので、この手法が有効だと考えます。図4はリソースジェネレータの構造で、縦にリソースが30個並び、横にそのリソースを獲得するつながりが示されます。

問題はこのリソースのリストどのように作るかということです。従来の研究では、これを研究者が作ってきたわけですが、我々はそうではなく地域住民と共に考えようということで、座談会を開催して、リソースリストを作ることを試みました。これが「つながり座談会」と呼ばれるものになります。

### 「つながり座談会」を通したリソースリスト作り

地域にとって重要なリソースを抽出するというこゝで、八千代、市原、館山の3ヶ所で行わせていただきました。ディスカッションのテーマとしては、「これまでの人生で親族や近所の人、友人・知人とのつながりを通じて助けられたことやよかったことは何ですか」そして「未来に残したい、復活させたい、さらに新たに築きたいつながりは何ですか」ということを聞きました。できるだけ具体的なものということで皆さんに話し合ってもらい、その結果、大きく分けて2つのタイプのリソースが抽出されました。

1つ目はいわゆる手段的なリソースと呼ばれるもので、物理的なサポートや金銭的なサポート、情報や物資の提供、他者や仕事の紹介といった何かに直接的に役に立つリソースです。高齢の親や子供の面倒をお願いできるとか、おすそ分けをしてくれるとか、そういったものになります。

それとともにこの座談会の中で出てきたものとして、表出的な、精神的なリソースがあります。これは精神的なサポートや共感、同意、受容、傾聴、刺激、所属感といった精神的な安定や安らぎなどをもたらすリソースです。悩みや愚痴を聞いてくれる、ありのままの自分を受け入れてくれる、やる気や刺激を与えてくれるといったものです。実は従来研究のリソースジェネレータで使用されたのは、ほとんどが前者の手段的なリソースでした。しかしながら今回座談会を開催したことで、表出的なリソースもリソースリストに加えるべきであると判断し、我々の方でリソースリストに加えて調査をさせていただきました。

リソースリストとして八千代市では、表1のような30個、館山市では表2のような30個を対象にしています。これについて先ほどお話ししたリソースジェネレータの調査を行いました。調査概要ですが、市町村ごとにだいたい900人から1000人程度の回答を得ました。年齢層も性別もばらけたかたちでの調査になっています。細かい結果は短時間では説明できませんので割愛しますが、何が言えるかというと、殆どのリソースはやはり同居者から得ていること、近所づきあいに関するリソースは獲得できる割合が低い状況があるということです。また、経済的なサポート、お金を貸してくれるということはなかなかその

表1 八千代市調査で使用したリソースリスト

リソース	リソース
おいしいお店（レストラン等）を教えてください	おすそわけをしあう
パソコンや携帯電話（スマートフォンなど）のトラブルが起こった時に頼りになる	使わなくなったもの（子どもの服や電化製品など）を譲ってくれる
趣味に関する情報を交換する	困った時に少額のお金を貸してくれる
病気の時などに自分の代わりにちょっとした買い物が頼める	保証人になることを頼める
自分で運転できない時（免許がない場合）に、自動車で目的地まで乗せていってもらえる	自分や家族の就職先（パート、アルバイトを含む）を紹介してくれる
お互いの家族構成を把握している	一緒に食事や飲みに行く
お互いに近況を確かめ合う	悩みや愚痴を聞いてもらえる（気持ち楽になる）
災害時の避難場所や安否確認方法の情報を共有している	自分が対応できない時に（一時的に）家族の世話（介護、子どもの世話、家事など）を頼める
旅行・帰省等で家を長期に留守にする際に、水やりなどちょっとしたことをお願いできる	評判の良い病院、介護施設、保育所、支援組織・制度、（学校・塾）などの情報を教えてくれる
災害時に必要な物資を送ってくれる	自分が病気や障害を抱えた時に物理的なサポート（介護等）を頼める
一緒に地域の活動（お祭りやボランティアなど）をする	英語の通訳や翻訳をしてもらう
一緒に趣味を楽しんだり、体を動かしたりする	お金に関するアドバイス（保険や投資、借金など）をしてくれる
自分や家族を日常的に気にかけてくれる（見守ってくれている）	自分の良い所も悪い所も尊重してくれる（受け容れてくれる）
地域の自然や環境、歴史について一緒に話をする	気軽に何でも聞ける物知りな知り合い
自分とは異なる価値観や経験を持った知り合い	お互いを高め合う知り合い

表2 館山市調査で使用したリソースリスト

リソース	リソース
あなたが病気や障害を抱えた時に介護、看病などをお願いできる	一緒に食事をしたり、お酒を飲みに行く
あなたが対応できない時、一時的に家事や家族の世話（介護、育児など）をお願いできる	一緒に趣味を楽しんだり、体を動かしたりする
お葬式の手伝いをお願いできる	悩みや愚痴を聞いてくれて、気持ちが楽になる
あなたが病気の時など動けない時に、代わりにちょっとした用事（買い物など）をお願いできる	お土産や野菜、魚などをおすそわけしてくれる
保証人になることをお願いできる	使わなくなったもの（子どもの服や電化製品など）をあなたや家族に譲ってくれる
あなたが運転できない時に、目的地までの送迎をお願いできる	火事や事故、災害時に必要な物資を送ってくれる
困った時に少額のお金を貸してくれる	災害時の避難場所や安否確認方法の情報を共有している
趣味に関する情報を教えてくれる	あなたの家族構成を把握している
地域の生活に役立つ情報（美味しいお店や安売りの情報、ごみの分別など）を教えてくれる	日常的にあなたや家族を気にかけてくれる（見守ってくれている）
あなたや家族の就職先（パート、アルバイトを含む）を紹介してくれる	あなたが特にお願いしなくても、自発的にいろいろと手伝ってくれたり、助けてくれる
お金に関する情報（保険や投資、税金、ローンなど）をアドバイスしてくれる	留守中、雨が降った時に洗濯物を取り込んでおいてくれる
評判の良い病院、介護施設、保育所、学校・塾などの情報を教えてくれる	家事や家族の世話（育児や介護など）を分担してくれる
パソコンや携帯電話（スマートフォンなど）のトラブルが起こった時に相談できる	あなたの良い所も悪い所も尊重してくれる（受け容れてくれる）
地域の自然や歴史、風習（行事、伝統料理など）について一緒に話をしてくれる	あなたにやる気や刺激を与えてくれる
一緒に地域の活動（お祭りやボランティアなど）をしてくれる	あなたの知らない人とつなげてくれる

辺の人をお願いすることではないので、やはり獲得率が低くなるとか、専門性の高いリソースも獲得率が低くなります。

### リソースジェネレータ調査から見えてくる人々の「つながり」

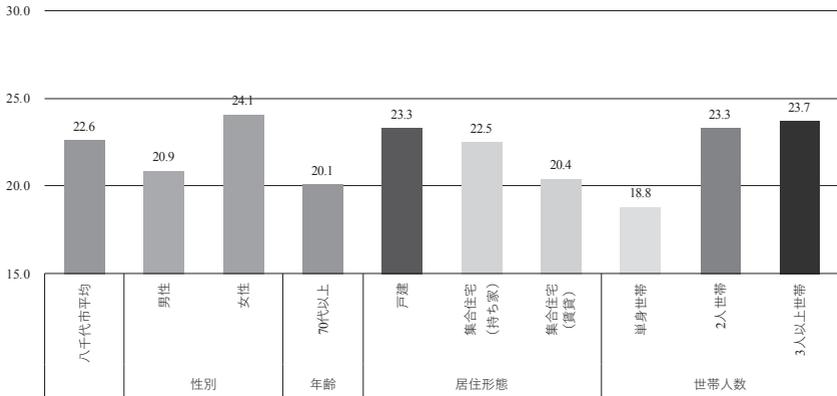
先ほどの地域の内や外という話でいうと、リソースの獲得がどこからなされているかを見てみますと、同居者から得られるもの、同居者と近所から得られるもの、近所や地域内、市内など空間的に近い人たちから得られるもの、そして市外の人から得られるもの、獲得先がばらけているものなどさまざまです。このようにリソースによって頼りになるつながりというものは、地域の人であったり、家族であったり、それ以外の人であったりと異なっており、多種多様なつながりこそが、その人にとっての重要な資源であることが再確認されたということになります。同じことは館山市についても言えますが、これは端折らせていただきます。

30のリソースのうち、平均でおおよそいくつのリソースが獲得できているかというのが、**図5**のグラフになります。八千代市全体が22.6に対して、男性と女性で比較しますと、女性の方がリソースの獲得数は多くなっています。しかし、実は知人の数を調べると男性の方が多いのです。つまり知人の数だけでは社会関係資本は見えないということが、この結果から見えてくることになります。

また、年代別で見ますと、ここでは70代以上しか載せていませんが、70歳以上だけが有意に低いという結果になっています。つまり、70歳を超えると急速に頼りになるつながりが減っている。その理由のひとつは同居者が減ってゆくため、たとえば配偶者との死別や子供の独立があることや、自分たちと同じ世代の友人たちも減っていくということもあると思います。

居住形態は飛ばしまして世帯人数を見ますと、単身世帯が圧倒的にリソースが少ないという結果になっています。これはやはり、同居者から得るリソースが多いというのが理由です。したがって今後高齢化が進み、単身世帯が増えていくことが予測されていますので、リソースジェネレータによる調査の結果を見ても、非常に危機的な状況が将来発生するかもしれない、ということが懸念

図5 属性別のリソース獲得数の平均 (八千代市)

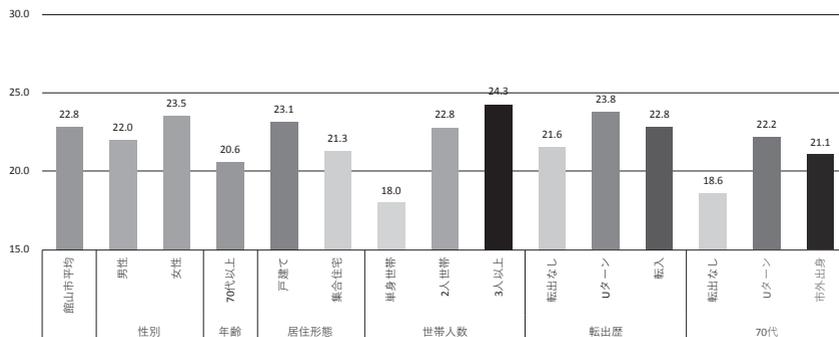


されるということです。

#### 多種多様な「つながり」が地域の社会関係資本を維持する

同じような傾向は図6の館山市の調査結果でも出てきました。同じところは端折らせていただきますが、館山市の場合で特徴的だったのが、転出歴・移動歴との関係です。Uターンの方や転出したことがなくずっと館山市に住んでいる方、Iターンや転入の方で見えますと、Uターンの方のリソースが有意に多いということが分かっています。この差は特に高齢者になると顕著です。先ほどお話ししましたように高齢者になってきますと、一般的にリソースの獲得数は減っていきませんが、Uターンの方を見ると市の平均と殆ど変わっていません。Uターンの方はリソースの減りが少ないと考えることができますし、もともとリソースの獲得数が多いということもあります。先ほどのつながりという話でいきますと、Uターンの方は子供時代あるいは家族を通じた地元のつながりを持っている。そして、自分たちが外へ出たときに職場等も含めて地域外につながりができる。Uターンの方は、地域のつながりと地域の外につながりという多様なつながりを持っているがゆえに、リソースの減りが少ない、あるいはリソースが多く獲得できると我々は予測しています。

図6 属性別のリソース獲得数の平均（館山市）



これらを踏まえまして整理しますと、つながり座談会においては手段的なリソースに加えて、表出的なリソースが重要であることが再確認されました。リソースジェネレータ調査では、リソースの獲得先は同居者で、リソースの種類による違いもあることがわかりました。女性は男性よりもリソースは得やすいですが、知人数は逆でした。リソースの多くは同居者から得ているものなので、高齢者や単身者はリソースを得にくい状態にあります。館山市の場合、Uターン者はリソースを得やすく、比較的高齢者であっても大きく減っていない。地域の内や外に多種多様なつながりを持っているということが豊富な社会関係資本にアクセスできることが示唆されました。

したがって、人口減少・超高齢化・単身世帯の増加は、社会関係資本の減少につながる可能性があります。一方で地域の内につながりを限定するのではなく、地域の内や外、同じ世代だけでなく違う世代とも多種多様なつながりを持つことが、リソースやその人の社会関係資本、ひいては地域の社会関係資本を維持するのに重要ではないかと言えるのではないかと思います。以上です。

（くりしま ひであき）